

衣類の回収・リペア・リユースによる地域内循環と
日本版リペアカフェの実証事業
事業報告書

実施団体名 合同会社CYKLUS ・ ハーチ株式会社

1. 対象地域の概要

都市／大学	所在地	人口／学生数（概数）
横浜市 大阪市	神奈川県 大阪府	約 3,771,000 人 約 2,817,000 人
神奈川大学 ICU（国際基督教大学） 関西学院大学 青山学院大学	神奈川県横浜市 東京都三鷹市 兵庫県西宮市 東京都渋谷区	約 18,300 人 約 3,155 人 約 25,700 人 約 19,900 人

2. 事業の目的

社会全体および地域が抱える課題

日本では、年間約80万トンの衣類が供給され、約70万トンが手放され、そのうち約50万トンが廃棄されています。大量生産・大量廃棄による環境負荷が深刻な課題となっています。

現在増加している衣類回収プログラムの多くは海外輸出が中心であり、地域内での循環を前提とした小規模かつ環境負荷の少ない循環モデルの構築例はまだ限られています。

また、リペアやリメイクを施せば再使用可能な衣類が廃棄されている現状があり、これに対する具体的な解決策が求められています。

さらに、回収された衣類が地域の資源として活用される機会が少なく、地域経済の活性化や雇用創出につながっていないという点も大きな課題です。

2. 事業の目的

1. **小さな地域内（もしくはコミュニティ内）循環モデルの構築**：既存の衣類回収モデルが全国的な回収、そして輸出による再使用が中心であるのに対し、本モデルは地域内での回収・修理・再販によるローカル循環を重視しています。
2. **リペアを中核に据えた事業モデルの構築**：リペアやリメイクなど手を加えればまだ着られるものが廃棄されている現状への解決策を提供します。
3. **メディア連動**：IDEAS FOR GOODの発信力を活かして本モデルを全国に波及させます。
4. **就労困難者の社会参加機会の創出と地域経済への波及効果**：社会福祉事業所との連携により、障がい者の就労支援と衣類循環の両立を実現します。
5. **若年層との協働による次世代育成**：大学との連携を通じて、循環型社会の担い手となる次世代人材の育成を図る教育的側面も持っています。
6. **トレーサビリティの高い循環モデル**：NFCタグを用いて衣類との思い出やストーリーを受け継ぐとともに回収後の透明性を担保してより環境的・社会的価値の高いモデルを確立するj。
7. **他地域への波及**：リペアとリユース、アップサイクルなど再利用、再循環オプションを連動させたサーキュラーモデルを提供し、地域の雇用や地域経済への波及効果のある地域内循環の事業モデルを確立、パッケージ化をして全国他地域や他コミュニティへの波及を目指す。

3. 事業の内容

Community Loops

「Community Loops」は、地域で集めた衣服を福祉事業所で分別・メンテナンスし、必要に応じてリペアして再び地域で活かす、環境省のモデル実証事業です。衣服を捨てずに、地域やコミュニティで循環させることで、環境への負荷を減らします。さらに、リペアカフェやワークショップを通じて学生や市民が集い、人とのつながりも広がる。環境にも、人にもやさしい、小さな循環をまちに育てていきます。

環境省 令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

Community Loops 運営：ハーチ株式会社・合同会社CYKLUS 協力：横浜市



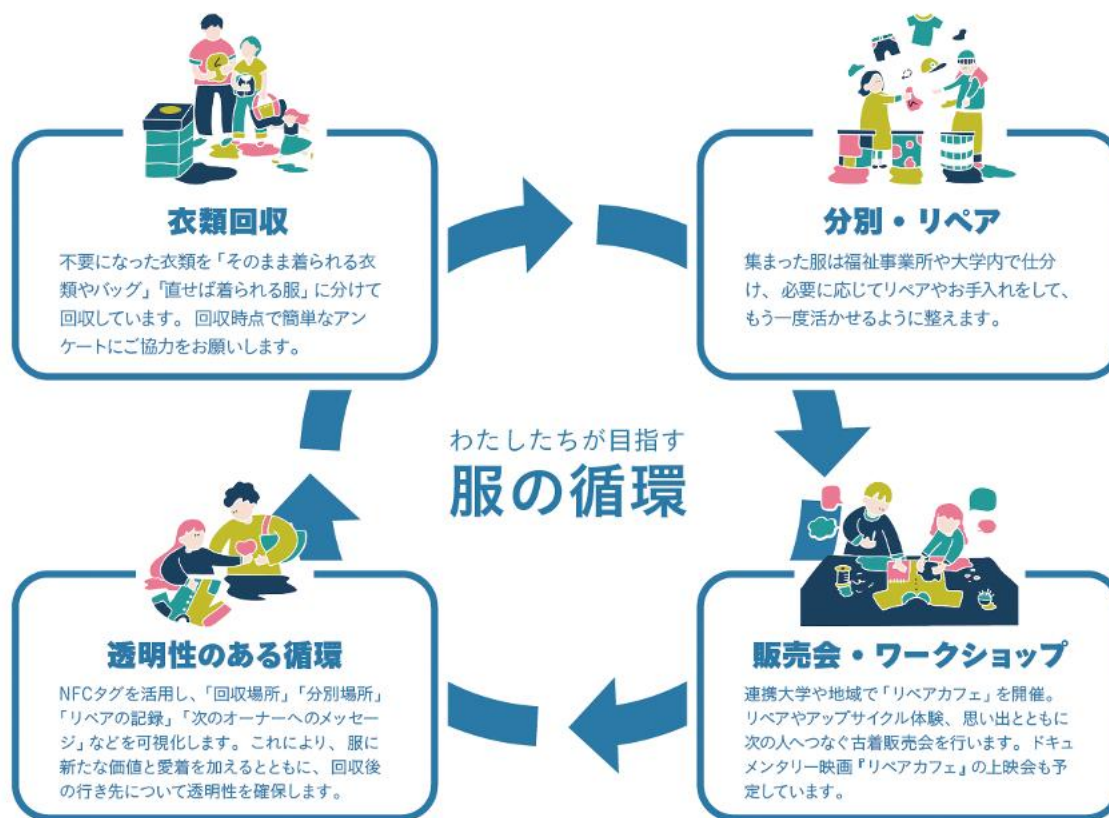
 **Harch**

CYKLUS

お問い合わせ：info@cyklus.jp

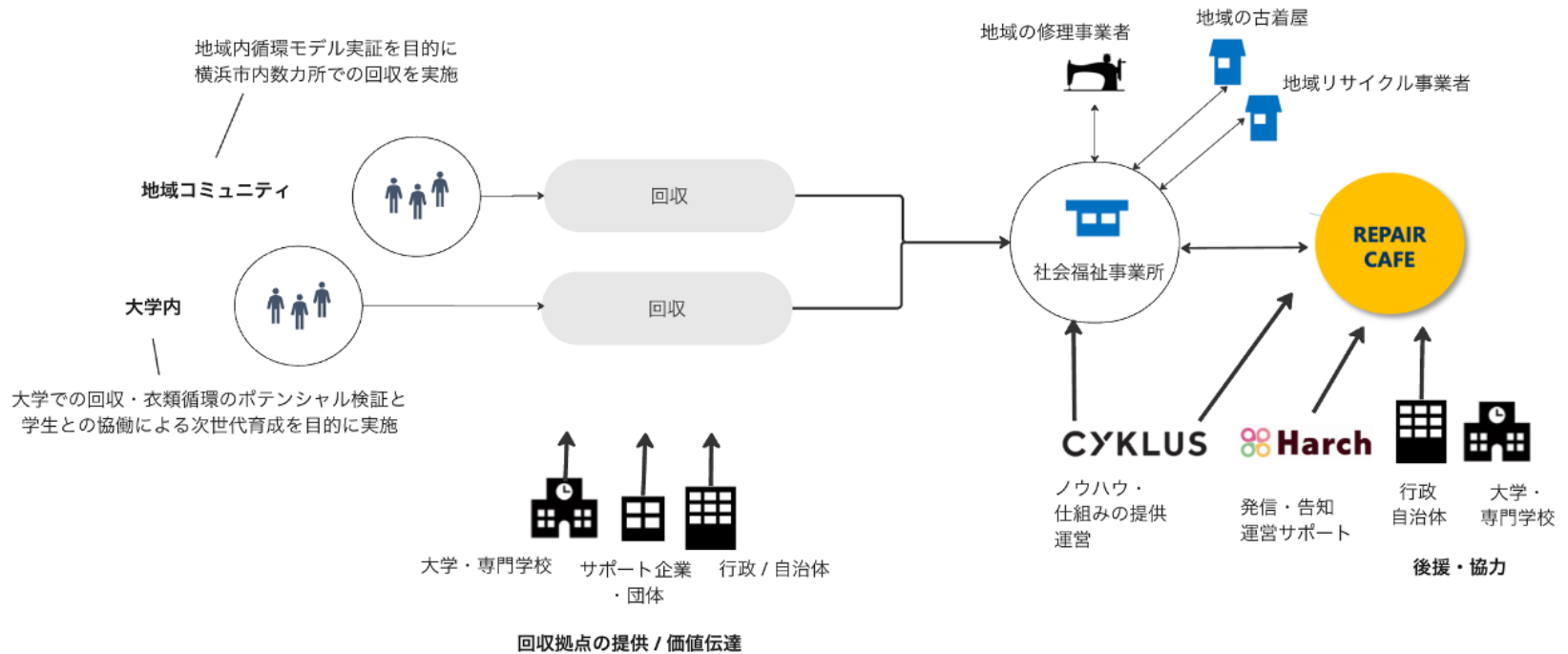
3. 事業の内容

Community Loops



3. 事業の内容

概要図



3. 事業の内容

衣類の回収場所

<連携大学> 4大学

- 神奈川大学みなとみらいキャンパス
- 国際基督教大学
- 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
- 青山学院大学 Innovation Around20 イベント内

<地域コミュニティ> 6コミュニティ

- Benten103 (神奈川・横浜)
- City Lab Tokyo (東京・京橋)
- PLAT UMEKITA (大阪市)
- 共創空間 bee (大阪・梅田)
- Sameshima Coffee Roaster (大阪・京橋)
- UR都市機構ほとりで (大阪・森之宮)

回収対象

- そのまま着られる衣類やバッグ
- 直せば着られる衣類

3. 事業の内容

リペアカフェ等イベントの実施

- 神奈川大学 みなとみらいキャンパス ファブラボみなとみらい
- 国際基督教大学 三鷹キャンパス
- 関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス
- 青山学院大学 Innovation Around20
- Benten103 (神奈川・横浜)
- PLAT UMEKITA (大阪市)
- 共創空間 bee (大阪・梅田)

PBL (Project Based Learning) の実施

- 神奈川大学 経営学部 道用ゼミ

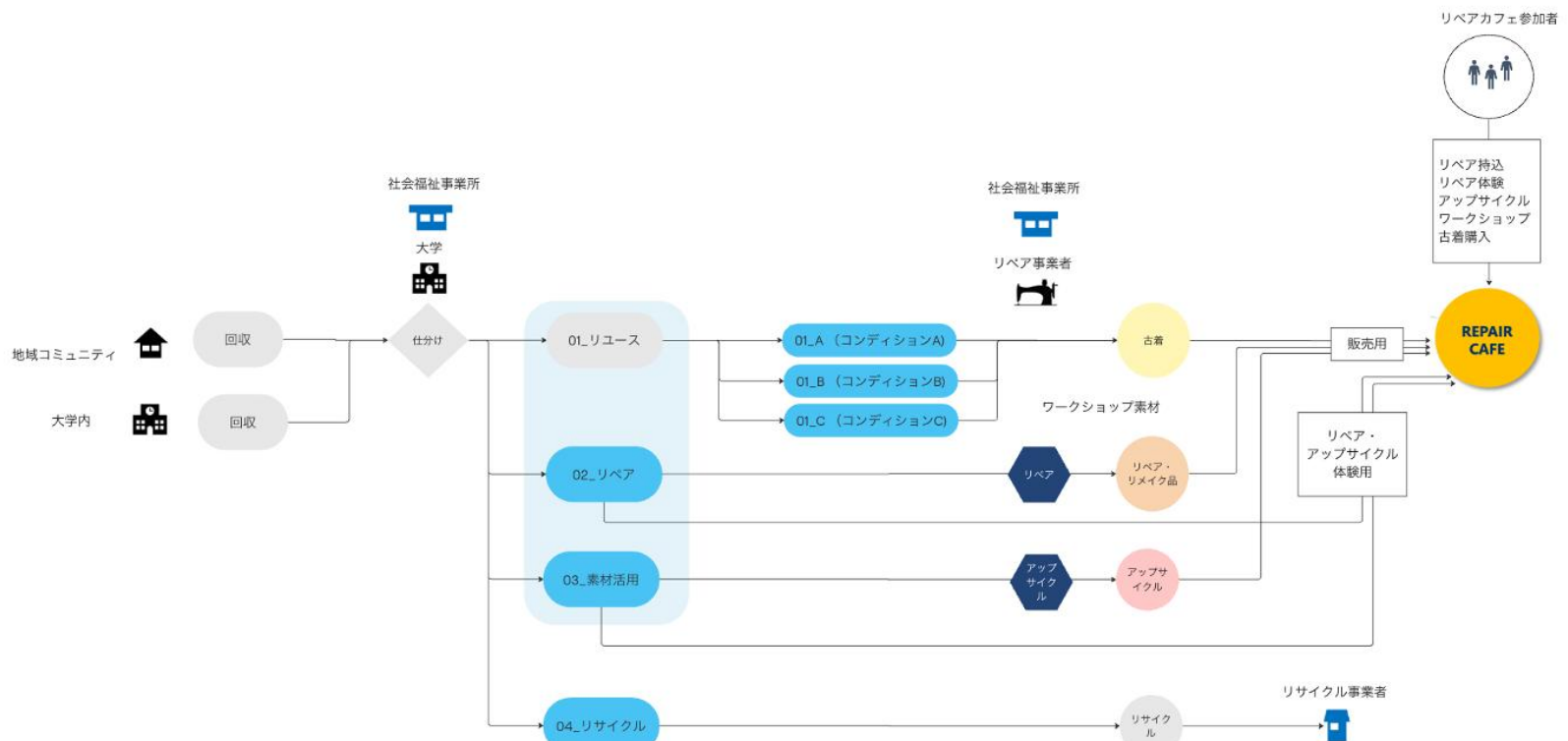
分別・仕分け・データ入力

- 就労継続支援B型事業所エールヨコハマ (神奈川県・横浜)

3. 事業の内容

回収・分類・再利用フロー

回収した衣類やバッグは回収拠点（就労継続支援B型事業所エールヨコハマ）に集約し、
1) そのままリユースできるもの 2) リペアが必要なもの 3) 素材として活用できるもの 4) リサイクル行き に分類され、データ入力とそれぞれの古着にNFCチップを付与してトレーサビリティとストーリー共有を行う。



3. 事業の内容

目標

回収対象人数（世帯）：550人（550世帯）

回収衣類数：約1,000着

- リユース率（再販売またはそのまま使用）：50%（約500着）
- リペア・リメイク率（修理して再使用）：20%（約200着）
- リサイクル率（素材として再資源化）：20%（約200着）
- 廃棄（サーマルリサイクル）：10%（約100着）

<地域連携・社会福祉的効果>

- 社会福祉事業所での委託作業数：50件
- 創出される作業時間：延べ250時間
- 担当作業数：10名程度（障がいのある方を中心とした雇用機会）

<教育・若年層への効果>

- リペアカフェの開催数：3回（横浜1回、大学2回）
- リペア体験・ワークショップ参加者数：200名
- 学生のプロジェクト参画数：20名程度（実行委員・運営含む）
- アンケート回答者数：300名

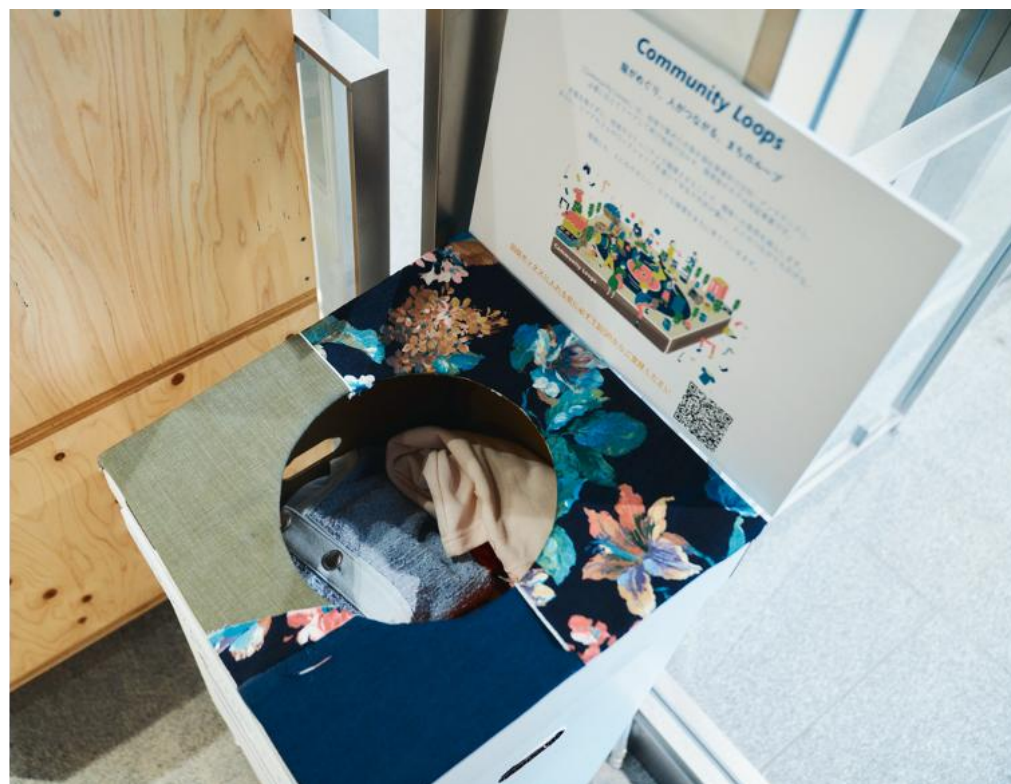
3. 事業の内容

<発信・全国展開の足がかり>

- 映画「The Repair Café」特設サイト訪問数：10,000PV
- IDEAS FOR GOODでの記事数：3本
- 記事閲覧数合計：50,000PV
- 本モデルを他地域に展開するためのガイドライン・実施フローを作成

3. 事業の内容

回収BOX



- 回収時に簡単な情報入力をしてもらい、その後の行く先も追える仕組み



3. 事業の内容

トレーサビリティとストーリー共有による価値向上



回収拠点
Link20@下北ワープ（下北沢）

回収日
2025-09-21



メッセージ
縫製や生地は結構良いので上手く着こなして欲しい！

衣類との思い出の写真

分別場所
就労継続支援B型事業所エールヨコハマ



Community Loops

回収拠点
神奈川大学みなどみらいキャンパス

回収日
2025-10-08



メッセージ
1年、2年以上着ていない服だけど、もう着ることはないと思う。
でも、まだ全然着られる状態なので、捨てたり服箱にしまっておくより、欲しい人に聞いてみていいかも。

衣類との思い出の写真

分別場所
就労継続支援B型事業所エールヨコハマ



リペア履歴

<基本情報>

- 回収場所
- 回収日
- アイテム
- メーカー / ブランド
- 回収衣類の画像

<ストーリー>

- 次のオーナーへのメッセージ
- 思い出の写真（オプション）

<回収後のトレーサビリティ>

- 集約場所
- 再利用ステータス
- 再利用状況

3. 事業の内容

回収Box告知内容

ご自宅で不要になった衣類を回収しています。

「Community Loops」は、地域で集めた衣類を福祉事業所で分別・メンテナンスし、必要に応じてリペアして再び地域で活かす、環境省のモデル実証事業です。

衣服を捨てずに、地域やコミュニティで循環させることで、環境への負荷を減らします。

さらに、リペアカフェやワークショップを通じて学生や市民が集い、人とのつながりも広がる。

環境にも、人にもやさしい、小さな循環をまちに育てていきます。



服がめぐり、
人がつながる、
まちのループ



回収ボックスに入れる前に
必ずQRコードから登録!

Community Loops

Community Loops

わたしたちが目指す
服の循環

回収できるもの

- そのまま着られる衣類やバッグ
トップス / ボトムス / アウター / 着物 / バッグ / 制服 / 服飾小物 (金風類を除く)
- 直せば着られる服
上記のアイテムで、小さな穴あきや破れなど、少し修繕を加えればまた使える衣類 (修理が必要なバッグ類は対象外)

〈注意事項〉

- 事前に洗濯済みのものを回収しています。
- 全体的に汚れや劣化のひどいもの、匂いがついているものは対象外です。
- 下着や肌着などに直接着用するものは対象外です。(TシャツはOK)

Community Loopsの取り組む概要、回収場所や回収期間、販売会やワークショップ開催情報などは右側のQRコードよりご確認ください。

また、実証期間終了後(2025年12月)以降、回収実績や回収後の行先について公開します。地域コミュニティでの循環づくりの取り組みに、ご協力をお願いいたします。

環境省 令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業
Community Loops 運営: パーチ株式会社・合同会社CYKLUS 協力: 株式会社

Harch CYKLUS

お問い合わせ: info@cyklus.jp

4. 事業の実施体制

<実施体制>

本モデル実証事業は、合同会社CYKLUSとハーチ株式会社の共同事業として実施。

合同会社CYKLUSの役割

- ・ 全体企画および運営
- ・ プロジェクトマネジメント
- ・ 社会福祉事業所との連携による回収・仕分け・修理体制の構築
- ・ 回収衣類のリペアおよびリメイク（外注へのディレクション含む）
- ・ 学生団体との連携・調整
- ・ リペアカフェの企画および運営

ハーチ株式会社の役割

- ・ 全体企画および運営
- ・ プロジェクトマネジメントサポート
- ・ メディアによる広報・情報発信
- ・ 「The Repair Café」映画の配給・上映企画
- ・ 地域団体・企業等との連携調整

4. 事業の実施体制

回収・分別パートナー

- 就労支援B型事業所 エールヨコハマ（横浜市）

連携大学（回収・PBL・イベント実施）

- 神奈川大学
- 神奈川大学経営学部道用ゼミ
- 国際基督教大学 SDGs推進室
- 関西学院サステナビリティ推進本部公認学生団体KG SDGsキャンパスサポーター
- 青山学院大学 Innovation Around20

地域コミュニティ（回収・イベント実施）

- Benten103（神奈川・横浜）
- City Lab Tokyo（東京・京橋）
- PLAT UMEKITA（大阪市）
- 共創空間 bee（大阪・梅田）
- Sameshima Coffee Roaster（大阪・京橋）
- UR都市機構ほとりで（大阪・森之宮）

協力自治体

- 横浜市

5. 事業の成果（サマリー）

- 回数衣類は目標1,000枚に対して944点、想定よりも**そのまま着られる衣類やバッグが多く全体の90%**を占めた。直せば着られる服が5%、リサイクル行きの衣類やバッグが6%となった。（四捨五入のため内訳の合計割合が100%と一致しない）
- 地域やコミュニティ内での回収、再利用フロー構築するモデルケースを構築する実証であったが、回収から分別、再利用準備までのスムーズな流れが確立できた。特に福祉事業所での分別・仕分け作業、データ入力までを一括して担ってもらうことで全体フローが円滑に進んだ。**今後、各地域の福祉事業所がサーキュラーの取り組みのハブとなるポテンシャルと**感じることとなった。
- 今回、4大学の学生団体やゼミとの連携で回収とイベント実施及び学習プログラム（PBL）を実施することで、学生への学びや体験の場を作ると同時に**学生の視点でのプログラムへのフィードバックや課題について**を得ることができた。
- 透明性とストーリー共有について、**古着を受け取る側にとっては新しい体験でもあり価値を感じる**こととなったが、**回収時点で自身のメッセージなどを入力する手間やモチベーションにはハードル**があり回収時アンケートは10%前後で低かった。
- リペアカフェイベント実施により、回収だけではなく既存のアパレル産業や衣類循環の課題、そして**リペアによって長く着続けることの共感をコミュニティに育む**ことができた。そもそも衣類との向き合い方を考え直すきっかけとなった。
- イベントで趣旨を伝え共感を得ることでコミュニティリーダーから新たに取り組みが波及するケースや、回収拠点で近隣との新たなつながりが生まれたケースが見られ、**ハブとなりうる地域コミュニティから繋がりや共感が広がる可能性**を感じた。
- 実証事業内での適切なリユースの出口までは見つけられず課題が残ったが、今後引き続き模索していく予定。今回は販売は行わなかったため経済性については検証できなかったが、今回の実証では状態が良いもの多く、**販売などの出口があれば地域コミュニティで持続的に運営することが可能な印象**となった。

5. 事業の成果（本実証事業の成果検証）

< 定量的検証 >

- 回収衣類の分類データ（リユース／リペア／リサイクル／廃棄の分類と比率） → 90%, 5%, 6%, 0% P22参照
- カテゴリ別内訳（アウター、トップス、ボトムス、小物などの構成比） → P23参照
- 衣類の寿命延長に伴うCO₂削減量の試算（例：Tシャツ1枚を1年間延命することで約3kg-CO₂の削減）
→ 2,706 kg削減（ただしリユース可能なものが全てリユースされて新品の購入に置き換わったという前提）

< 福祉的効果 >

- 就労支援事業所の作業記録に基づく作業時間・工程数・スキル向上記録
→ 作業時間 170h, 工程数仕分け作業（NFCタグあり）201枚分、仕分け作業（NFCタグなし）213枚分
- 関係者ヒアリングによる福祉効果・満足度の定性評価 → P42参照

< 教育・意識変容の検証 >

- 学生・一般参加者への事後アンケート（リペアやサステナブルに関する意識変容） → P30, P31参照
- ワークショップ参加者の満足度評価および次回参加意向 → P30, P31参照

< 社会波及性の検証 >

- Web記事・特設ページのPV・UU・滞在時間・SNSシェア数等のメディア分析
→ 告知記事 PV 2,211, UU 1,947, PR Times 転載サイト39, 参照サイト4, 滞在時間 46秒
- 全国展開に向けた導入フローの汎用性・再現性に関する検証（他地域ヒアリング含む）
→ P48, P49参照
全国展開用「ガイドライン」骨子案については2026度中を目標に策定予定
（福祉事業所における分別フローガイドライン、リペアカフェおよび洋服交換会運営ガイドラインを想定）

5. 事業の成果（サマリー）

Community Loops プロジェクト Short Movie



<https://youtu.be/bl0pOylnHWU>

5. 事業の成果（衣類回収）

分類	協力パートナー		衣類回収					
			回収日数	回収数	そのままリユース可能	リペアで再利用可能	リサイクル	廃棄（サーマル）
大学	1	神奈川大学（神奈川・横浜）	71	86	75	7	4	
	2	国際基督教大学（東京・三鷹）	30	28	25	2	2	
	3	青山学院大学（東京・渋谷）	1	31	24	3	4	
	4	関西学院大学（兵庫・西宮）	14	397	353	21	23	
		小計	116	542	477	33	33	
地域コミュニティ	1	benten103（神奈川・横浜）	95	156	151	1	4	
	2	City Lab Tokyo（東京・千代田区）	10	80	78	2		
	3	PLAT UMEKITA（大阪・梅田）	36	95	81	4	10	
	4	共創空間 Bee（大阪・梅田）	29	25	21	3	1	
	5	Sameshima Coffee Roastery ANGLER（大阪・京橋）	12	26	20	3	3	
	6	UR都市機構ほとりで（大阪・森之宮）	18	20	18	1	1	
		小計	200	402	369	14	19	
		合計	316	944	845	47	52	
構成比					90%	5%	6%	
当初目標値				1,000	500	200	200	100
目標比				94%	169%	23%	26%	

・回数衣類は目標1,000枚に対して944点、想定よりも**そのまま着られる衣類やバッグが多く全体の90%**を占めた。直せば着られる服が5%、リサイクル行きの衣類やバッグが6%となった。（四捨五入のため内訳の合計割合が100%と一致しない）

・また、回収ボックスへの異物混入などは見られなかった。

・数年前から継続的に衣類やその他の不用品回収の取り組みを行なっている関西学院大学で最も多くの回収数があった。拠点ごとに回収場所や告知の方法に違いはあったが、回収量の差が生まれた主な理由としては拠点ごとのSNS等の発信力の違いが影響していると考えられる。

5. 事業の成果（衣類回収）

アイテム	個数	
子供服・ベビー服	77	19%
Tシャツ	59	14%
パンツ	59	14%
その他	42	10%
シャツ	38	9%
セーター	26	6%
ジャケット・アウター	20	5%
スカート	18	4%
トレーナー・パーカー	16	4%
カットソー	14	3%
ワンピース	13	3%
小物	12	3%
バッグ	11	3%
ベスト	7	2%
ツーピース	1	0%
複数あり	1	0%
	414	

・アイテム別では子供服・ベビー服が最も多く、**サイズアウトによる着用期間の短い子供服・ベビー服を地域内で循環させるポテンシャル**を感じる事となった。

・その他、Tシャツやパンツなどカジュアルなアイテムが多く、その他には着物が多く含まれていた。

5. 事業の成果（衣類回収）



シティラボ東京は、2018年に東京京橋で開設した

「持続可能なまちづくりのためのビジネス創出に向けた参加型プラットフォーム」です。

コワーキングスペースやイベントスペースといった空間の運営、各種プログラムなどの企画を通し、サステナブルシティ形成に向けたネットワークの構築や、コラボレーションの促進のための活動を行っています。

About

いっしょに創ろう。

あしたに繋がる、
持続可能なみんなのまちを。

わたしの好きなこのまち。あなたの好きなあの景色。
わたし達の大事なこの時が、
これからもずっと続いていくように。

「暮らす」、「働く」を支える、
明日のみんなのまちのため、
サステナブルな発想・取り組みから、
都市の課題と向き合い、ともに想い、
ともに動く仲間がいます。

持続可能な都市や、社会づくりを目指す
共創の場「シティラボ東京」で、
みんなのまちの明日の話をしませんか？

01

多様なコラボレーション
Sustainability
network



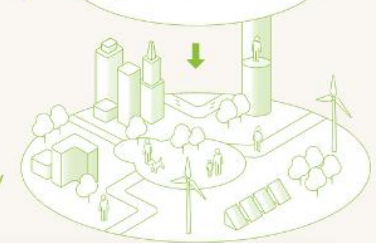
02

サステナブルビジネスの創出
Sustainable project



03

次世代のまちづくり
Sustainable city



City Lab Tokyo コミュニティマネージャーコメント：

今回の取り組みを通じ、衣類回収の確かなニーズや、会員・ビル利用者からの好反応を実感できた。全体的に運用までの負荷が少なく、拠点設置は実施しやすかった。

CLV（City Lab Ventures）メンバーとの協働事例として、外部から訪れる人に対して「サーキュラービジネス」「サステナブル×まちづくり」に取り組む施設であることを伝える効果もあり、施設価値向上にも寄与したと考えられる。また効果を高めるためには、同フロア他機関との連携も考えられる。

利用者間、そしてスタッフと会員の自然なコミュニケーションも生まれ、コミュニティ活性にもつながった。今回の実施は小規模ではあるものの、場の可能性、利用者の関心、地域との関係構築など、取り組みを通じて多くの発見を得ることができた。



5. 事業の成果（衣類回収時アンケート）

分類	協力パートナー		アンケート回収		
			回収数	アンケート回答数	回答率
大学	1	神奈川大学（神奈川・横浜）	86	15	17%
	2	国際基督教大学（東京・三鷹）	28	12	43%
	3	青山学院大学（東京・渋谷）	31	6	19%
	4	関西学院大学（兵庫・西宮）	397	2	1%
		小計	542	35	6%
地域コミュニティ	1	benten103（神奈川・横浜）	156	41	26%
	2	City Lab Tokyo（東京・千代田区）	80	9	11%
	3	PLAT UMEKITA（大阪・梅田）	95	5	5%
	4	共創空間 Bee（大阪・梅田）	25		
	5	Sameshima Coffee Roastery ANGLER（大阪・京橋）	26	5	19%
	6	UR都市機構ほとりで（大阪・森之宮）	20		
		小計	402	60	15%
		合計	944	95	10%

- ・ 透明性とストーリー共有について、古着を受け取る側にとっては新しい体験でもあり価値を感じる事となった。
- ・ 一方で、回収時点で自身のメッセージなどを入力する手間やモチベーションにはハードルがあり回収時アンケートは10%前後で低かった。

5. 事業の成果（衣類回収時アンケート）

メッセージ例（次のオーナーへのメッセージや衣類との思い出など）

- 学生の頃、気に入ってはいていたジーンズ。まだらがかわいい。あまりピタッとしたジーンズをはかなくなってしまったので、寝ていました。
- アメリカで旅行に行き購入しました。デザインは好きだったけど、自分には合わなくなったので。
- 子どもの衣類はすぐ小さくなってしまうので、部分的にでも何かにご活用いただけたら嬉しいです。
- 着心地ばっつぐん！！体型にストライプが合わなくなり、泣く泣く手放します。
- お母さんからもらった服や過去に結構使った服になってます！次の方へ生まれ変わった形で使われること楽しみにしています！
- 紺色の着物は古着で買いました。寒い冬に室内で暖房を使わずにセーターの上に着てた長着です。着物は絹だから軽くてあったかい！



回収拠点

Link20@下北ワープ（下北沢）

回収日

2025-09-21



メッセージ

縫製や生地は結構良いので上手く着こなして欲しい！

衣類との思い出の写真

分別場所

就労継続支援B型事業所エールヨコハマ



5. 事業の成果（分別作業）

福祉事業所での分別・仕分け・データ入力作業

- ① 回収衣類の荷受け検品
- ② 5つのカテゴリーに分別
- ③ データベースに入力
- ④ コメントと衣類のマッチング
- ⑤ NFCチップにデータ紐付け
- ⑥ NFCチップを入れる袋の制作、古着に付与
- ⑦ カテゴリーごとに整理・保管

分類カテゴリー

- 1) そのままりユース_全体的に状態が良い
- 2) そのままりユース_やや使用感がある
- 3) そのままりユース_全体的に使用感がある
- 4) リペアして再利用
- 5) リサイクル



・地域やコミュニティ内での回収、再利用フロー構築するモデルケースを構築する実証であったが、回収から分別、再利用準備までのスムーズな流れが確立できた。

・特に福祉事業所での分別・仕分け作業、データ入力までを一括して担ってもらうことで全体フローが円滑に進んだ。今後、各地域の福祉事業所がサーキュラーの取り組みのハブとなるポテンシャルと感ずることとなった。

5. 事業の成果（透明性とストーリー共有）

トレーサビリティとストーリー共有への評価



https://drive.google.com/file/d/10JQkXMqgpycRZLzAAzei5bTDun4YjiJ/view?usp=drive_link

5. 事業の成果（イベント実績）

分類	協力パートナー		リペアカフェイベント				その他		
			イベント実施	参加者数	衣類修理点数	リメイク点数	衣類持ち帰り	学園祭提供	児童養護施設
大学	1	神奈川大学（神奈川・横浜）	1	18			15		
	2	国際基督教大学（東京・三鷹）	1	11	10		12		
	3	青山学院大学（東京・渋谷）	1	13	15	5	8		
	4	関西学院大学（兵庫・西宮）	1	50	5	15	10	127	40
		小計	4	92	30	20	45	127	40
地域コミュニティ	1	benten103（神奈川・横浜）	2	25	4		48		
	2	City Lab Tokyo（東京・千代田区）							
	3	PLAT UMEKITA（大阪・梅田）	1	10	10		10		
	4	共創空間 Bee（大阪・梅田）	1	8	1		5		
	5	Sameshima Coffee Roastery ANGLER（大阪・京橋）							
	6	UR都市機構ほとりで（大阪・森之宮）							
		小計	4	43	15	0	63		
		合計	8	135	45	20	108	127	40

・ 4 大学、3 地域コミュニティで合計 8 回のリユース&リペアイベントが開催され、合計135名が参加した。

・ 各イベントでは洋服交換会や回収衣類の無償提供などを行うと同時にリペアサービスやリペア体験、アップサイクルワークショップなどが行われ、回収だけではなく既存のアパレル産業や衣類循環の課題、そしてリペアによって長く着続けることの共感をコミュニティに育むことができた。

5. 事業の成果（イベント参加アンケート）

参加イベント Participated event	年代 Age	性別 Gender	Q4. イベント参加前はリペア・リメイクにどのような印象を抱いていましたか。また、参加後にその印象に変化はありましたか。 Has your impression changed after participating?	Q12. 社会にリペアの文化を広げるために何が必要だと思いますか？ What do you think is needed to spread the culture of repair in society?	Q13. 衣類回収や再利用の仕組みについて、どのような仕組みや取り組みがあると良いと思いますか？ What kind of systems and do you think would be good for reusing clothing?
11/11（火） 関西学院大学リペアカフェ	10代	女性	参加前はリペア・リメイクの名前すら知らなかったためどういうものなのか分からなかったが、参加後はその背景を知ることができて印象に変化があった。	リペアは難しいというイメージがあるため、そのイメージを減らすために学校教育のカリキュラムにリペア文化学習を取り入れてみたらいいと思った。	自治体と連携してドローンを飛ばして衣類回収を行えば、回収場所に持っていくという負担が軽減されると思う。
11/11（火） 関西学院大学リペアカフェ	20代	男性	以前も破れたデニムを直してもらったことがありましたが、今回はリペアする様子を見させていただきました。今回は少しお話しする機会もあったのですが、お話ししていく中で破れたデニムの謎が解けたり、逆に破れたデニムから私の癖が垣間見れたりして、楽しい経験でした。	気軽にリペアに触れる機会とかでしょうか	再利用の際に、元の持ち主のストーリーがわかるようなものがあると、ただ環境に良いからや安いからといった理由だけでなく、再利用に別の価値が生まれそうだと思います
11/11（火） 関西学院大学リペアカフェ	20代	女性	参加前は少し面倒臭そうだと思っていたが、実際にやってみると楽しく、面倒臭さは感じなかった。		

「以前も破れたデニムを直してもらったことがありましたが、今回はリペアする様子を見させていただきました。今回は少しお話しする機会もあったのですが、お話ししていく中で破れたデニムの謎が解けたり、逆に破れたデニムから私の癖が垣間見れたりして、楽しい経験でした。」

「リペアは難しいというイメージがあるため、そのイメージを減らすために学校教育のカリキュラムにリペア文化学習を取り入れてみたらいいと思った。」

5. 事業の成果（イベント参加アンケート）

参加イベント Participated event	年代 Age	性別 Gender	Q4. イベント参加前はリペア・リメイクにどのような印象を抱いていましたか。また、参加後にその印象に変化はありましたか。 Has your impression changed after participating?	Q12. 社会にリペアの文化を広げるために何が必要だと思いますか？ What do you think is needed to spread the culture of repair in society?	Q13. 衣類回収や再利用の仕組みについて、どのような仕組みや取り組みがあると良いと思いますか？ What kind of systems and do you think would be good for reusing clothing?
11/12 (水) Plat Umekitaリペアカフェ	40代	男性	愛着ある服を着続けられるのが素敵で物を大切にしようという意識も湧いてきます		
11/12 (水) Plat Umekitaリペアカフェ	30代	女性	難しそう、だけどやってみたい！という気持ちでした。	体験の場をつくる。 修理できる前提の製品を増やす。	回収後の衣服の再配布がどこでやっているのかがよく分からない印象です。 出すだけでなく、メリットも分かりやすかったら取り組む人が増えるのかと思います。
11/12 (水) Plat Umekitaリペアカフェ	50代	女性	参加前は、リペアやリメイクを「壊れたものを直す」というシンプルなお直しの作業として捉えていました。しかし、参加後はその印象が大きく変わりました。リペアカフェをテーマにした映画の影響もありましたが、当日のCYKLUSの皆さんや関係者、PU活運営のハーチ担当者の方々がつくり出すあたたかな雰囲気に触れ、「リペア」は単なる修理ではなく、「人と人をつなぐ場」と感じるようになりました。リペアカフェの意義を、物を直すことを通じて関係を紡ぐコミュニティ活動として実感しました。	リペア文化を広げるには、「直すことの楽しさ」を身近に感じられる場づくりが大切だと思います。リペアを特別な技術ではなく、誰でも気軽に挑戦できることとして伝える工夫が必要です。また、ファッションやライフスタイルと結びつけ、「おしゃれの一部」として発信することも効果的だと感じます。さらに、職人さんや地域、企業が連携し、リペアを支える仕組みを整えることで、モノを大切にする文化が社会に根づいていくと思いました。	CYKLUSさんが実証実験で行っている「タグ」の活用を広げることは、とても意義があると感じました。タグには、手放した人の思いやエピソード、どんなふうに着てもらいたのかなどが記されていて、単なるリサイクル情報ではなく、人と人をつなぐ温かい仕組みになっていました。 こうしたタグ付きのリサイクルが広がれば、衣類への愛着が生まれ、簡単に捨てるという意識も減ると思います。受け取る側も前の持ち主の思いに触れることで、より大切に使いたいという気持ちが育つはずで、モノを介して人の想いが循環する、そんな仕組みが広がっていく良いと思います。
11/12 (水) Plat Umekitaリペアカフェ	20代	女性	専門的な技術が必要で、お店に持って行かなければリペアできないと思っていましたが、でも、今回のリペアカフェを通じて、知識と少しのコツを知っていれば自分でも簡単なリペアができるとわかり、勇気が出ました！	簡単なリペア技術を伝えるワークショップを各地で開催すること。もうすでにたくさんさんのワークショップをされてると思いますが、大人になって改めて、手縫いする機会？ミシンに触れる機会を経験するとリペアのハードルがグッと下がると思います！（服の修理はお金がかかる、安い服だともう捨てるか、と私も思いがちです。。）	道端とか、普段通る道に設置するのはどうでしょうか(防犯の問題がありますが、、)
11/12 (水) Plat Umekitaリペアカフェ	40代	男性	リペアやリメイクは難しいものだと思っていた。参加した後も技術やセンスが必要だということは変わらないけれど、気軽に相談できる場があると良いなと思いました。	気軽に相談でき直してくれる場所 例えばカフェとかにリペアできる場所があったりすると良いなと思いました。	長く使い続けることが環境負荷が少ないということをみんなが知って、楽しく服を循環させたいです。

「リペア文化を広げるには、「直すことの楽しさ」を身近に感じられる場づくりが大切だと思います。リペアを特別な技術ではなく、誰でも気軽に挑戦できることとして伝える工夫が必要です。また、ファッションやライフスタイルと結びつけ、「おしゃれの一部」として発信することも効果的だと感じます。さらに、職人さんや地域、企業が連携し、リペアを支える仕組みを整えることで、モノを大切にする文化が社会に根づいていくと思いました。」

5. 事業の成果（イベントレポート）

手放す、めぐる、生まれ変わる。服と物語の交換
～地域をまるごとクローゼットにする「Community Loops」&リペアカフェ～

<開催概要>

日時：2025年 9月12日(金) 18:00-20:00 トーク & 服交換会

場所：benten103

対象：地域コミュニティ等の一般参加者

<コンテンツ>

- ・オープニングトーク
- ・ファッションスワップタイム
- ・洋服紹介&クロストーク

<実績>

洋服交換会 イベント参加者 14名

洋服交換点数 22点



9月12日、環境省採択の使用済み衣料回収実証事業「Community Loops」のキックオフイベントが開催され、14名の参加者が思い出やエピソードのつまった衣類を持ち寄りました。大切にしてきた着物、着なくなったお気に入りの服、家族に託された服などが、それぞれにまつわる物語と共に会場に集まりました。



5. 事業の成果（イベントレポート）

LINK20「リペア」×「スローファッション」

<開催概要>

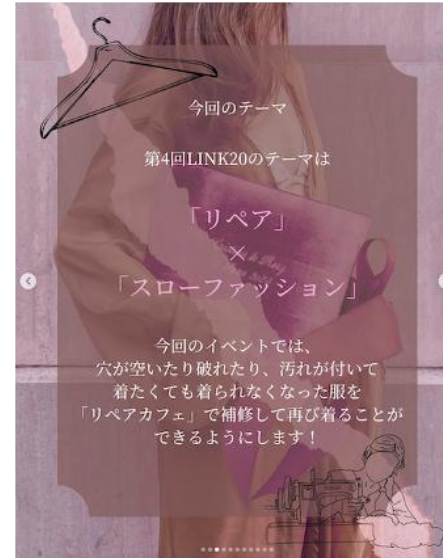
日時：2025年 9月21日(土) 15:00-18:00
主催：青山学院大学 Innovation Around20
場所：下北ワープ
対象：学生、一般

<コンテンツ>

- ・「リペアカフェ」上映会
- ・ミシンやワッペンによるリペア体験
- ・古着の無償提供

<実績>

参加者 13名



アパレル産業の環境問題にフォーカスし、「スローファッション」を広めるために活動している学生団体 Innovation Around 20とCommunity Loops共催によるリペアカフェイベントが開催された。Around 20が過去に回収した古着や端切れを活用して作成したオリジナルワッペンを活用したリペアやリメイクを楽しみ、「リペア」と「スローファッション」を掛け合わせを考え実践する機会となった。



5. 事業の成果（イベントレポート）

ICU大学SDGs推進室主催「リペアカフェ」

<開催概要>

日時：2025年 11月1日(土) 13:00-16:30

場所：ICU大学 三鷹キャンパス 新D館

対象：学生

<コンテンツ>

- ・「リペアカフェ」上映会
- ・ミシンや刺繍によるリペア体験
- ・Re-dyeing projectによる染め直し展示

<実績>

参加者 7名

ICU大学SDGs推進室「エシカルファッション班」と Community Loopsの共同企画。

ドキュメンタリー映画「リペアカフェ」上映会の後、SDGs推進室によって準備されたいくつかの課題やテーマに沿ってディスカッション。アパレル産業における大量生産や大量消費の課題に向き合い、より良い社会に向けての意見交換が活発に行われた。その後のリペア体験会ではそれぞれ持ち寄ったリペア希望品をリペア職人が修理を施すとともに、自身で刺繍を行い修理およびリメイクを楽しんだ。



5. 事業の成果（イベントレポート）

【PU活：大阪梅田でエシカルを楽しもう】長く使うファッションに踏み出そう！ やってみよう | 第3回 ファッションリペアカフェ in PLAT UMEKITA

<開催概要>

日時：2025年 11月12日(水) 18:30-20:00

場所：PLAT UMEKITA

対象：PU活参加者

<コンテンツ>

- ・ Community Loopsプロジェクトの説明
- ・ リペア・アレンジWS

参加者が持ち込んだ「直したい、捨てられない服」を、長く着続けるための修理方法やアレンジ方法を参加者と修理技術者でアイデアを共有し、技術者のサポートのもと実際に参加者が手を動かし、修理やアレンジに挑戦。

<実績>

参加者 10名

体験型共創施設PLAT UMEKITAで「エシカルテイメント」をテーマに企画されている「PU活（ぶかつ）」のイベントとして実施。PU活参加者はサステナブル・エシカルに興味がある方が多く、サーキュラーエコノミーの知識や課題のインプットの次の段階として、自ら実践する機会の提供の場となった。大阪のファッションの中心地である梅田での開催という点においてインパクトが強く、参加者から地域コミュニティへの波及効果も見込めるイベントとなった。



5. 事業の成果（PBLレポート）

神奈川県道用ゼミ×CommunityLoops“Co-CreationLab” 【Phase3:拡張と総括】循環型の未来へ繋ぐ学内中間発表会

<開催概要>

日時：2025年11月21日(金) 15:20-17:00

場所：神奈川県みなとみらいキャンパス1Fソーシャルcommons

対象：神奈川県道用ゼミ学生

<パネラー>

合同会社CYKLUS代表・CommunityLoops事業責任者平田健夫
横浜市横浜市脱炭素・GREENXEXPO推進局課長補佐飯島延矢様
サステナブルファッション専門家山口大人（やまぐちまさと）様

<発表会内容>

道用ゼミ4チームの企画プロジェクト 中間発表（各10分）

パネラーから各チームへフィードバック・Q&A・ディスカッション（各5分）



ゼミの中で学んだ衣類の廃棄に関する社会課題を解決するための方法を各チームでプロジェクトとして立案、実際にプロトタイプを作成や具体的なプロダクトや枠組みの企画を行い、社会実装することでのアウトカムやインパクトを発表。学内で回収した製品で作成されたプロトタイプや、実際の運用を目指し作成されたウェブサイトは高い完成度であった。また、衣類回収やリユース品に対する若年層の率直な考えが反映された各プロジェクトは、世代間における価値観の違いに応じた心理的価値の創出の必要性が示され、社会全体へリユース事業を波及させるための収穫となった。



5. 事業の成果（イベントレポート）

リペアカフェみなとみらいβ 対話編 “その服は、何を語りたがっている？”

<開催概要>

日時：2025年 11月22日(土) 13:00-15:00

場所：神奈川大学みなとみらいキャンパス FabLabみなとみらい

対象：地域コミュニティ等の一般参加者

<コンテンツ>

- ・ 「リペアカフェ」上映と感想発表
- ・ 対話ワークショップ「Listen to your Clothes」
修理したい服、手放せない物語のある衣類と向き合い、その物語を参加者同士で共有し合う対話ワークショップ
- ・ 「これから」のリペア相談会
修理方法やアイデアをリペアラーに相談し、自身で取り組めるきっかけやヒントを得る
- ・ 黒染めの展示（Re:dyeingproject提供）

<実績>

参加者 9名

モノを大切にする意識の高い方や、ご自身で手芸や縫い物を趣味とされている方、またリペアカフェに興味のある方の参加が多く、ただ直したいというだけではなく、愛着のあるモノに対してのストーリーに共感度の高いイベントとなった。

ご自身の技術を活かして社会貢献や地域コミュニティとのつながりを作りたい方たちにとって、「リペアカフェ」という場が彼らを行動に導くためのツールとなる可能性の高さが窺えた。



5. 事業の成果（イベントレポート）

手放す、めぐる、生まれ変わる。服と物語の交換

～地域をまるごとクローゼットにする「Community Loops」&リペアカフェ～

<開催概要>

日時：2025年 12月3日(水)

14:00-18:00 リペアカフェ

18:00-20:00 トーク & 服交換会

場所：benten103

対象：地域コミュニティ等の一般参加者

<コンテンツ>

- ・リペアカフェ 参加者が持ち込んだ衣類の修理
- ・オープニングトーク
- ・ファッションスワップタイム
- ・洋服紹介 & クロストーク

<実績>

修理品持ち込み 5名

洋服交換会 イベント参加者 10名

リペアカフェでは、サイズアウトした洋服や母親からもらったお気に入りの服のなどが持ち込まれ、修理を行なった。また、シニア層でリペアカフェに興味を持ち、ご自身の技術を活かしたボランティア活動をしたと思っている方が数名来場された。縫製経験があるシニア層は多く、リペアカフェやリユース事業の中の作業など、活躍の場を作ることで生きがいの創出や、他世代との交流に繋がる可能性が考えられた。



5. 事業の成果（イベントレポート）

クローゼットに眠る服を交換しよう

開催概要

日時：2025年12月4日(金) 19:00-20:30

場所：共創空間bee（大阪・梅田）

株式会社オカムラ オフィス内

対象：地域コミュニティ等の一般参加者

コンテンツ

- ・洋服紹介 & クロストーク
- ・衣類のリペアサービス
- ・回収衣類でコーディネート対決

実績

洋服交換会 イベント参加者 5名



大学生や地域で勤務する会社員の方が参加し、Community Loopsで回収された衣類や持ち込み衣類をお互いに交換し合う洋服交換会を実施。修理したい服を直すりペアサービスも同時開催。破れたニットを修理したり、ミシンを体験する機会の提供ができ、洋服交換会でのコーディネート対決では2チームに分かれてオフィスカジュアルコーディネートのアイデアを出し合った。手放された衣類も合わせ方により価値を再認識させる興味深い取り組みとなった。



5. 事業の成果（広報・情報発信）

- ・ 「IDEAS FOR GOOD」 Community Loops事業内容告知記事掲載：2025年9月12日
－ [「服がめぐり、人がつながる。地域発の衣類循環プロジェクト「Community Loops」、横浜・東京・大阪で始動」](#)
- ・ 「IDEAS FOR GOOD」 Community Loops事業内容報告記事掲載：2026年1月予定
- ・ webメディア「Circular Yokohama」掲載：2025年8月20日
－ [【9/12】手放す、めぐる、生まれ変わる。服と物語を交換し、地域をまるごとクローゼットにする「Community Loops」キックオフイベントが開催](#)
- ・ FM Fuji 「ACTAS」電話インタビュー取材：2025年9月22日
- ・ 神奈川大学みなとみらいキャンパス「お知らせ」掲載：2025年9月22日
－ [環境省採択プロジェクト「Community Loops」に本学が協力します](#)
- ・ webメディア「Circular Yokohama」掲載：2025年9月24日
－ [「服がめぐり、人がつながる。地域発の衣類循環プロジェクト「Community Loops」、横浜・東京・大阪で始動」](#)
- ・ KANMATCHプロジェクト公式サイト掲載：2025年11月18日
－ [服がめぐり、人がつながる、まちのループ。Community Loopsに参加しています。](#)
- ・ FMヨコハマ「Keep Green and Blue」出演：2025年11月23日-26日



5. 事業の成果（総評）

今回の実証事業を通じて、地域内での衣類循環の仕組みづくりにおいて、社会福祉事業所をハブとし、地域のステークホルダーが協力しながら、**導入ハードルの低い衣類回収システムを構築・運用することの高いポテンシャル**を確認することができた。

また、**教育機関や自治体、まちづくり・コミュニティづくりに取り組む関係者が連携**し、仕組みの構築から運営までを担う体制が実現可能であることも明らかになった。

さらに、なぜ衣類回収が必要なのか、**リペアを含めた長期利用の価値とは何かを伝えるイベントと組み合わせ実施**することで、消費のあり方やモノと人との関係性を見つめ直す機会を創出できることがわかった。単なる仕組みの構築にとどまらず、モノを長く大切に使い、再利用することの価値を「文化」として育てていく重要性を強く認識する結果となった。

近年、商業施設や自治体、メーカーなどによる衣類回収の取り組みが広がり、生活動線上に回収の選択肢が生まれつつあることは大きな前進である。「捨てる」から「循環させる」へと意識が変化し、衣類が再び社会に戻る道筋が少しずつ整いつつある。一方で、不要となった衣類を効率的に大量回収し、再利用・再資源化する仕組みだけでは見落とされがちな課題も存在する。

Community Loopsでは、こうした課題に対し、「**人とモノの関係性**」を大切にする**地域内循環の視点**を組み込み、将来的には既存の仕組みの強みも活かしながら、より良い衣類循環の社会実装の可能性を継続的に模索していきたい。

Community Loops

6. 今後の検討課題

社会福祉事業所での仕分け等作業

今回協力いただいた就労継続支援B型事業所「エールヨコハマ」は、新しい取り組みに対する柔軟性が高く、衣類の仕分け・分別といった手作業からデータ入力までを一貫して担うことができる体制を有していた。そのため、回収から管理までの一連のオペレーションを円滑に構築・運用することが可能となった。福祉事業所が地域内循環の中核を担ううえで、業務適応力と多様な作業工程への対応力が重要な要素であることが、本実証を通じて確認された。

今後、本取り組みを他地域へ横展開していくにあたっては、今回の実証で得られた知見を反映したガイドラインを整備するとともに、事業所向けのトレーニングプログラムを構築することが不可欠である。これにより、地域や事業所ごとの差異を踏まえつつ、一定の品質と効率を担保した運用が可能になると考えられる。

また、今回は実証期間が限られていたため、リペアやリメイクに関する本格的なトレーニングまでは実施できなかったが、今後、回収した衣類に付加価値を加えるリペア・リメイクサービスを福祉事業所内で担えるようになれば、回収・再利用プログラムの質はさらに高まると考えられる。福祉事業所が地域のハブとして機能することで、将来的には衣類に限らず、他の資源循環分野へと展開していくポテンシャルも有している。



6. 今後の検討課題

NFCチップによる透明性とストーリー共有

今回の実証において、衣類回収時に利用者自身がメッセージや情報を登録するプロセスは、心理的・運用的なハードルが一定程度あることが明らかになった。一方で、回収された衣類を受け取る側にとっては、その背景やストーリーが共有されることの価値が高く、共感や納得感を高める要素となり得ることが確認された。

このことから、今後の回収モデルにおいて、回収時点で利用者に情報入力を求める設計を前提とすることは、必ずしも現実的ではない可能性がある。

一方で、DPP（デジタル・プロダクト・パスポート）など、仕組みとしてあらかじめ情報蓄積の基盤が組み込まれている場合には、ユーザーが無理なく使用履歴やエピソードを追加していき、それらが結果的にリースや再流通のタイミングで次の利用者に引き継がれる仕組みの構築が考えられる。こうした形であれば、利用者負担を抑えながら、ストーリー共有による価値創出を実現できる可能性がある。

また、透明性の確保という観点に限定すれば、必ずしもすべての衣類にNFCチップを付与する必要はない。福祉事業所において回収・仕分け・再流通の各工程を定量的にトラッキングし、後追い可能なデータ管理体制を整えることで、一定程度は代替可能であると考えられる。NFCチップの活用については、ストーリー性や体験価値を重視する場面に限定するなど、目的に応じた使い分けが今後の検討課題となる。



6. 今後の検討課題

リペア / リメイク

リペアを施せば引き続き着用可能であるにもかかわらず、多くの衣類が廃棄されている現状を踏まえ、本実証ではリペアが必要な衣類を回収するトライアルを実施した。しかし、告知段階において趣旨が十分に伝わらなかったこともあり、回収品全体に占めるリペア対象品の割合は5%と限定的な結果となった。リペアの必要性や目的を短い告知の中で伝えることの難しさが、改めて浮き彫りとなった。（売り切れなかったリペア品・リユース品は現在はストックしており、基本的に地域内循環の可能性を探り、再利用の状況はCommunity Loops特設ページで公開予定。）

一方で、リペアカフェ等のイベントを通じて、衣類を直す楽しさや、再び着られるようになる喜びを体験として伝えることには大きな手応えがあった。参加者がリペアを「単に元に戻す行為」ではなくそれを越えた「モノとの関係性を深める体験」として捉えることで、衣類との関係性が変化する様子が確認された。

また、リペアは「誰かのものを直す」よりも、「自分のものを直す」ことに対して高い価値を感じやすい傾向があることも示唆された。今後は、衣類を手放す前の段階でリペアという選択肢に自然にアクセスできる仕組みを普及させることが重要であり、回収とリペアを明確に分けた導線設計や、リペア体験を起点とした循環モデルの構築が求められる。



6. 今後の検討課題

教育

神奈川大学におけるPBL（Project Based Learning）では、本プログラムを題材として、衣類廃棄や地域循環といった社会課題を自分ごととして捉え、解決策を考える有意義な学びの機会となった。学生が実際の地域課題に向き合い、企画や提案を行うプロセスは、机上の学習にとどまらない実践的な教育効果をもたらした。

また、運営側にとっても、学生ならではの視点や発想に触れることで、新たな気づきやこれまで想定していなかった考え方を得る機会となり、プログラムの改善や発展につながる示唆が得られた。他大学においても、学生が主体となって企画や運営に関わることで、それぞれの大学や地域特性を反映した個性ある取り組みが展開された。

一方で、今後の課題として、もともと関心の高い学生層にとどまらず、より幅広い学生がプログラムに参加・学習できる機会をどのように創出していくかが挙げられる。選択科目や課外活動に限らず、学部横断型の取り組みや、地域と連携した実践の場を設けることが一つの方向性として考えられる。

加えて、学生同士の横のつながりを育むとともに、学生と地域コミュニティが協働する関係性をどのように構築していくかも重要なテーマである。教育と地域循環の取り組みを結びつけることで、学びが一過性の体験に終わらず、地域に根づいた持続的な活動へと発展していくことが期待される。



6. 今後の検討課題

人の集いの場づくり

地域コミュニティにおいて、人が集い、衣類循環や資源循環について考える「場」を設けることは、高い有効性を持つことが確認された。単に衣類を循環させる仕組みを提供するだけでなく、その意義や、そもそもモノとどのように向き合うべきかを考える機会を併せて提供することは、環境的観点からも重要である。

実際、そのような対話や体験の場があれば参加したいと考える人は多く、今回の実証においても、意図的に機会を創出することで、地域内に新たなつながりや関係性が数多く生まれた。衣類回収やリペアといった行為をきっかけに、人と人が緩やかにつながり、循環を自分ごととして捉える土壌が形成されつつあることが確認できた。

一方で、こうした「場」を継続的に成立させるためには、自治体の関与や地域のリーダーの存在、そして複数の主体をつなぐハブとなるコーディネーターの役割が不可欠である。地域特性を理解し、関係者を調整しながら場を設計・運営する存在があってこそ、循環の取り組みは一過性に終わらず、地域に根づいた活動として展開していくと考えられる。



6. 今後の検討課題

衣類回収システムについて考察

2030年までに衣類廃棄量を25%削減するためには、回収・再利用の仕組みを整備するだけでなく、市民一人ひとりの衣類との向き合い方そのものを見直していく必要がある。街の中に回収拠点が増え、「捨てる」以外の選択肢が身近になることは重要な一步であるが、容易に手放せる環境が、同時に容易な買い替えを助長してしまう可能性も否定できない。

そのため、街での衣類回収プログラムは、単に衣類を集める仕組みとしてではなく、「なぜ回収するのか」「その衣類がその後どのように扱われるのか」を市民と共有する場として設計される必要がある。回収と同時に、長く使うことや修理すること、再利用することの意味を伝えることで、消費行動そのものを見直すきっかけを生み出すことができる。

また、回収・再利用のフローに加え、衣類を手放す前の段階で立ち止まる選択肢を社会に根づかせていくことも重要である。リペアやメンテナンス、誰かに引き継ぐといった行為を、特別なことではなく日常的な選択肢として提示することで、衣類の総量そのものを抑制していく視点が求められる。

本実証で得られた知見からは、衣類回収を起点とした取り組みが、市民の意識変容や地域内の対話を生み出す力を持つことが確認された。街の中に「考える場」や「関わる余地」を設けることで、衣類循環は単なる環境施策ではなく、暮らしや価値観に根ざした行動として定着していく可能性がある。今後は、こうした市民参加型の回収プログラムを通じて、無理なく、しかし確実に、衣類との関係性を変えていく取り組みが求められる。

7. 事業終了後の展開

本実証事業を通じて、Community Loopsの取り組みに関心を示す企業、団体、自治体が複数現れている。本プログラムは、地域内で循環のハブとなる社会福祉事業所が存在すれば、比較的低い導入コストで立ち上げることが可能であり、一定の品質を担保した衣類を回収できれば、地域内に販売・活用の出口を見出すことで、大きな利益を前提とせずとも持続可能な運営モデルを構築できる可能性を有している。

また、本取り組みは衣類循環にとどまらず、教育的効果、福祉的価値、さらにはまちづくりの観点からも波及効果が大きい点が特徴である。例えば、福井県で地域循環を推進する「ぐるぐるふくい」では、越前町の社会福祉施設「ドリカムベース」をハブとした展開に高いポテンシャルが見込まれている。加えて、「ないものはない」というコンセプトを掲げる隠岐島・海士町からも関心が寄せられており、地域資源を活かした循環型の取り組みとの親和性が高いと考えられる。

さらに、地方都市の商業施設においては、服装専門学校と連携した取り組みの検討が進んでおり、教育機関と結びついた循環モデルの可能性も見え始めている。また、今回実証の終盤に回収拠点として協力いただいたUR都市機構「ほとりで」からは、今後、地域内循環に継続的に取り組みたいとの声が上がっており、住宅・生活圏を起点とした展開も期待される。

これらの動きを踏まえ、Community Loopsは今後も各地域の特性や既存の取り組みを尊重しながら、地域に根ざした循環モデルの社会実装を段階的に進めていくことを目指す。

8. 横展開へのポイント

本プログラムは、地域内に循環の中核を担う社会福祉事業所とこの取り組みに賛同するステークホルダーが集まれば、大きな投資を行わずとも導入が可能であり、回収衣類の品質と行き先を地域内で確保できれば、継続的に運営できる仕組みである。すでにいくつかの団体、企業、自治体から関心が寄せられており、他地域への展開に向けた土壌が整いつつある。

横展開を進めるうえでの主なポイントとしては、まず福祉事業所における作業フローや品質基準の整理といったオペレーションルールの整備が挙げられる。加えて、関係するステークホルダーが無理なく運用できる**Community Loops**の導入及び運用ガイドライン整備や、地域ごとの協力パートナーの発掘・関係構築が不可欠である。

また、循環の取り組みを一過性の活動に終わらせないためには、教育的視点を組み込むことが重要であり、学校や専門教育機関との連携は積極的に検討すべき要素である。導入・運営初期においては、自治体や地域のハブとなる地元企業による一定の資金的支援があることで、関係者が最初の一步を踏み出しやすくなり、結果として地域に根づいた取り組みへと発展していくことが期待される。